

定例教育委員会【議事録】

日 時 令和6年12月13日(金)
9時30分～

場 所 岡谷市役所6階 605会議室

署名委員 太田教育長職務代理人、林教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 一人一台端末 NEXT GIGAについて【資料No.1】 (教育総務課)
2. 川岸学園整備事業について【資料No.2】 (川岸学園整備室)

○ 報 告

1. ウェルビーイング実践校 TOCO-TON (トコトン) の指定について【資料No.3】 (教育総務課)
2. 令和7年 二十歳を祝う会について【資料No.4】 (生涯学習課)
3. 年末年始休業中の学校完全閉庁日について【資料No.5】 (教育総務課)
4. 令和6年12月定例会の議案について【資料No.6】 (各課)
5. 岡谷市議会9月定例会一般質問要旨について【資料No.7】 (各課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理人 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、教育委員 轟 美緒
教育委員 林 慎太郎

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 白田 研一、スポーツ振興課長 小松 隆広、教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、
教育総務課教育企画主幹 西山 塁、川岸学園整備室川岸学園整備主幹 新村 尚志、
生涯学習課青少年主幹 長門 哲、教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和6年12月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は太田教育長職務代理者と林教育委員にお願いいたします。

○教育長報告

宮坂教育長： 初めに私から報告をします。

早いもので二十四節気も残すところ冬至だけになりました。ニュースではポインセチア、シクラメン、シャコバサボテン等が賑わっていますが、我が家ではシンビジュームが咲き、デンドロビュームの花芽も出てきてこれからが楽しみです。

子どもたちの姿から三点、報告します。

一点目ですが、11月21日にカノラホールにて市内小中学校音楽会の最後を飾る、岡谷東部中学校の合唱コンクールが行われました。音楽と懸命に向き合う子どもたちの姿が見られ、心が揺さぶられました。指揮者を見ながら一生懸命歌う一年生と二年生。三年生のクラス合唱と、学年合唱「友」の発表は圧巻でした。三年生の姿を見て、一年生と二年生が学んでいる様子を伺うことができました。憧れの姿の具現がそこにはありました。また、放送で指揮者や伴奏者が紹介されるのですが、「さん」付けで名前を呼ぶことが定着しており、非常に優しい、耳に響く心地よさがありました。

二点目は、11月15日に川岸小学校と岡谷東部中学校で行われた、県美術教育研究大会です。私は川岸小学校を見ましたが、川岸小学校の一年生と川岸保育園、成田保育園の年長による異年齢交流によるアート体験をしていました。多彩な形や色のカードを使って立体を作り、協力しながら創作活動に取り組んでいました。

三点目は12月8日に行われた「第33回英語スピーチコンテスト」です。8名の中学生が参加し、様々な現代課題や、自分の興味関心に関する英語弁論が行われました。非常にレベルが高く、ネイティブな発音が会場に溢れていました。委員長のメアリー先生が、子どもたちの頑張りを、本当に丁寧に温かく評してくれたことがとても嬉しかったです。また、ALTの先生や国際交流員の方々が、緊張している子どもたちに励ましの言葉をかけたり、スピーチが終わった後に、優しい声をかけて評価したりしている姿を見ることができました。きっと参加した子どもたちはこれからも英語活動を楽しんでいけるのだと感じました。

つづきまして、生涯学習課から報告をします。

10月19日の市民舞踊祭から始まった令和6年度岡谷市文化祭も12月1日

宮坂教育長：

の岡谷演劇祭を最後に全6部門が無事終了いたしました。11月3日の文化の日には「第81回 市民音楽祭」がカノラホールで開催され、一般の音楽活動をされている団体とともに、市内外の小中高校の児童・生徒約380名にも参加していただき、日頃の練習の成果である、美しいコーラスや演奏をカノラホールの大舞台で発表していただきました。

市内の小学校からは、上の原小学校、長地小学校、湊小学校、小井川小学校、神明小学校の209名の児童の皆さんに、中学校からは岡谷東部中学校、岡谷西部中学校、岡谷北部中学校の82名の生徒の皆さんに参加していただきました。クラスやクラブで練習を重ねてきた美しい歌声や演奏がカノラホールに響き渡り、皆さんが日頃努力している姿を想像しながら、発表を聞かせていただき、大変感動いたしました。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

今年で30周年を迎えた「やまびこ国際スケートセンター」が11月23日にオープンし、当日は586名の入場がありました。

天候にも恵まれたこの日は、元オリンピック選手による模範滑走やスケート教室が行われたほか、多くの親子連れが初滑りを楽しむ姿が見られました。今シーズンは、74回目を迎える「諏訪地方スケート大会」をはじめ各大会が予定されておりますので、冬季スケート競技の盛り上がり值得期待しているところであります。

次に、11月30日、12月1日の両日に、岡谷市民総合体育館でバレーボールSVリーグ男子「VC長野トライデンツ」対「大阪ブルテオン」の試合が行われました。

バレーボールの国内最高峰の試合が本市で開催できることは大変貴重で、多くの皆さんに迫力あるプレーを楽しんでいただきました。「大阪ブルテオン」には、日本代表で活躍する選手が所属していることもあり、両日とも熱狂的なファンで会場は満席となり、熱戦を繰り広げた両チームに大きな歓声と拍手が沸き起こっております。

来年1月、2月にも本市でホームゲームが予定されておりますので、多くの市民の皆さんに、VC長野トライデンツを応援していただくとともに、バレーボール競技を通じて、市民のスポーツ振興につながることを期待しているところであります。

それでは本日の議事に入ります。

○議 題

1 一人一台端末 NEXT GIGAについて

<来年度で導入から5年となる一人一台端末が更新時期を迎えているため、国の動向を踏まえた今後の更新概要について、資料No.1に基づき事務局より説明>

太田教育長職務代理者： 端末の補助内容も前回と今回で異なっています。各自治体で計画の策定と公表が必要との説明もありましたが、今後のスケジュールについて現時点で決まっているのでしょうか。

事務局（両角）： ICTの整備計画は第一世代を導入するときに岡谷市も策定をしています。当初の計画では、全生徒に一齐に端末を導入するものではなく、段階的に一人一台端末を整備していく予定でしたが、コロナ禍の影響もあり、令和2年度に国が一齐に導入する方針を出しました。それを受け、岡谷市でも一人一台端末の導入と、それに伴う学校のネットワーク環境の高速化に関する計画を策定しています。今後は既に策定済みのこの計画を更新していきます。

端末については、当然劣化をしますので、何年かおきに時代に合わせた更新が必要になります。

太田教育長職務代理者： 次の更新時の費用については、基金等を使っていくのでしょうか。

事務局（両角）： 市町村としては基金を第一条件にして、国にも補助のお願いをしていますが、現時点では示されておりません。その時の国の考え方によって、費用をどのように調達するか、時代に合わせた検討が必要になってまいります。今回は配布した資料の内容が示されています。

太田教育長職務代理者： 費用と策定していく計画の整合性はどのようにとるのでしょうか。

事務局（両角）： 短期の計画になりますので、更新をかけて環境整備した端末をどう活用するかになります。次の更新期にはその時の状況に合わせた計画の策定が必要です。

林教育委員： 第一世代の端末から第二世代の端末に切り替わる時、古い端末は回収するのでしょうか。また、先生や生徒の転入時は、予備機で対応しているのでしょうか。

事務局（両角）： 行政が調達する備品は、買い取りかリースのどちらかです。現在の一人一台端末につきましては買い取りをしており、市の備品となっております。壊れない限りは使うことができますが、充電を繰り返すとバッテリーが劣化しますし、触る頻度が高いキーボードも劣化が進んでいます。そのため概ね5年程度で更新が必要になってきます。

転入につきましては、生徒数に対して15%の予備機を所持すれば、十

事務局（両角）： 分ですし、生徒数の減もありますので不足なく運用できています。先生につきましても、もし増加することがあれば市で調達する予定です。

藤森教育委員： OSのそれぞれの特徴についてご説明いただきましたが、現状使っているOSは何でしょうか。

事務局（両角）： 現在、岡谷市はWindowsのノートパソコンを利用しています。モニターとキーボードが分かれるセパレート型です。モニターサイズは10インチでWindows10が内蔵されています。

藤森教育委員： 我々も職場でパソコンを使っていますが、やはり数年使うと不具合が出てきます。なるべく信頼性の高いものを選定いただくことをお願いします。

轟教育委員： 現在はセパレートタイプのノートパソコンを使っているようですが、次の端末もノートパソコンを検討しているのでしょうか。例えばキーボードの付いていないタブレットに変更された場合、使い勝手も大きく変わるので、可能なら今までと同じタイプの端末が使いやすいのでは、と思っています。また、タブレットは持っていますがパソコンはないご家庭があるかもしれません。

事務局（両角）： 端末の条件に、キーボードの標準装備が含まれていますので、どの端末を選定したとしても、キーボードの扱いは学べます。

保証面では、例えばWindowsは端末にハードディスクやメモリが付いており、故障時は本体ごと取り替える必要があります、そこは一つのリスクになっています。

家庭への持ち帰りもあるので、端末の重量も考慮する必要があります。どのような使い方が子どもたちにとって良いか、考えながら選択する必要があります。

なお、学習をするうえで必要な機能はどのOSでも問題なく利用できます。

太田教育長職務代理者： 県の共同調達ということですが、各市町村で端末を選ぶという認識で良いでしょうか。長野県内の市町村すべてが同じ端末を使うということではありませんよね。

事務局（両角）： 例えばすべての市町村が、個々に入札をして端末を購入しようとする膨大な業務量になってしまいます。機種については市町村のニーズが反映された入札を共同で行っていきます。

宮坂教育長： 一人一台端末については、更新時期を踏まえ、今後導入が進むデジタル教科書や動画教材を十分に活用できる第2期の整備を進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

2 川岸学園整備事業について

<川岸学園の基本設計（案）について事務局より No.2 に基づき説明>

藤森教育委員： 何点か感じた点を質問させていただきます。まず基本設計の設計コンセプトに「川岸地域の歴史・伝統・風土」という言葉が含まれていますが、具体的に何をイメージされているのでしょうか。

次に、前期校舎、後期校舎と名称が分けられていますが、義務教育学校9年間の前期と後期の分け方は、小学校6年間、中学校3年間と同じということでしょうか。義務教育学校は9年間で小学校と中学校が一つになり、自由に設計ができることがメリットだと思います。校舎のレイアウトの話ではなく、義務教育学校の運用上での、前期と後期の定義について教えてください。

事務局（両角）： まず「川岸地域の歴史・伝統・風土」につきまして、高尾山が川岸小学校の校章や校歌にあります。それから岡谷市が積み重ねてきた歴史のなかには片倉組の製糸業があります。それらが認定こども園のコンセプトに含まれています。

プレイルームイメージにはボルダリングができる設備もあり、安全に山遊びのような活動ができるようにしています。少し強引ですが、このように山のイメージも取り入れていきたいと思っています。

続いて、前期と後期の定義につきまして、義務教育学校は柔軟な設計ができることがメリットですが、現在小学生6学年と中学生3学年がありますので、今の児童生徒が利用できる広さを確保した設備であることが最低条件です。例えば前期後期だけでなく、中期も含めた区切りも可能ですが、それについてはこれから学校運営計画の中で決めていく部分です。どのような形になっても対応ができる環境を作っております。

藤森教育委員： 今はハード面の内容が多いですが、最終的にはソフト面も含めた議論を深める必要があります。そういった流れの中で、「川岸地域の歴史・伝統・風土」は大切なキーワードになると思われましたのでこのような質問をさせていただきました。

前期と後期の定義につきましても、これから議論を深めたいと思っていますのでよろしくお願いします。

林教育委員： このように分かりやすい資料を出していただいたことでイメージがしやすく、とてもわくわくする内容になっていると思います。

基本設計をするにあたって、学校の先生の見解は取り入れられているのでしょうか。それとも設計事務所がイメージしたのでしょうか。

事務局（両角）： 7月に設計業者と契約し、この設計（案）を作るまでに、何度も打ち合わせを行っています。設計業者と市、小中学校や保育園も含めて熟議をしており、本日の夜も市民説明会を開催します。そのようにして現場の声を形にしています。設計にあたり法的な基準も踏まえながらこの内容まで精度を上げてきました。そのため設計事務所のみで作っているものではありません。

林教育委員： 今回のような大きなプロジェクトは、完成してから、こうしておけばよかったと後悔することがあるかもしれませんが、多方面から意見をもらっていることに安心しました。私も岡谷西部中学校出身なので、このような経過も知ることができ、とてもわくわくしています。

轟教育委員： 施設全体コンセプトについて、全体的に綺麗な言葉でまとめてあります。「紡ぐ」「織りなす」といった部分は岡谷の製糸業をイメージしているのだと思います。義務教育学校コンセプトにも「しなやかな」という言葉が使われており、こちらも綺麗な言葉になっています。ですがこれらの言葉には曖昧さもあると思います。認定こども園のコンセプトの「自然に包まれた笑顔溢れるこども園」はとても分かりやすいコンセプトになっていると感じました。

そもそもコンセプトとは何かを考えてみた時に、捉え方が人によって変わってはならないと思いました。より分かりやすく、短く、重点が分かる内容である必要があります。川岸学園の基本設計コンセプトを見てそう感じました。

次に、保育園と隣接されている学童クラブにつきまして、送迎がしやすいよう設計されており、とても良いと感じました。現在は駐車場から距離がありますのでとてもありがたいです。

太田教育長職務代理者： 認定こども園や前期校舎は山が近くにあり、自然学習広場や、えがおにじいろフィールドがあります。自然を感じながらのびのびと学習できる設備になれば嬉しいと思います。

次にハードの面で質問ですが、以前は接続棟に一階はなかったと思いますが、計画の変更があったのでしょうか。

事務局（新村）： 先生や子どもの導線やグラウンドの確保を考える中で、接続廊下は二階が好ましいという話がありました。しかし小学校一年生の教室が二階にあるので、給食を取りに一階に降りて、また二階に上がるのは大変ではないかという意見もあり、大きな費用のかからない犬走りの接続廊下を追加で設置する運びになりました。その場合、前期校舎のエレベーターを使う予定です。

- 太田教育長職務代理者： 犬走りということは、横壁がないということでしょうか。
- 事務局（新村）： はい。一階渡り廊下には、天井はありますが横壁はありません。
- 藤森教育委員： プールが二つあります。小学校低学年と中学生では体格も大きく異なるので、同じプールを使うことは難しいとは思いますが、二つのプールを維持するのは大変なことです。また、前期校舎のプールは何年生までが利用する予定でしょうか。
- 事務局（両角）： 低学年と高学年で水深も異なるので、安全性を踏まえ、今回は二つのプールを今までと同じように小学生と中学生それぞれで利用する計画です。ですが、老朽化で大きな改修が必要になる時期が来たときには、後期棟への移設や、市民プールの利用を検討する必要があると思っています。
- 藤森教育委員： プールの中に沈めて、水深を浅くするための台を活用すればプールを一つにすることもできたかもしれません。ですが、学校にプールがあることはとても良いことだと思いますので、今後も検討をしていただきたいと思います。
- 太田教育長職務代理者： メディアセンター（図書館）につきまして、前期校舎と後期校舎にそれぞれあるのだと思っていましたが、今回は義務教育学校内で一つなのでしょうか。
- 事務局（新村）： 前期校舎にメディアセンター（図書館）があり、こちらにはICT端末がありますので、中学生が利用することも、もちろん可能ですが、後期校舎三階に図書室があります。その横に学習室もありますので、メディアセンターのような使い方は後期校舎でも可能です。
- 宮坂教育長： 本日、説明しました基本設計案の配置図からは整備後の学校間のつながりや、認定こども園の子どもたちとの日常的な交流など、子どもたちが元気に活動する姿を思い描くことができ、私自身、とても期待をもてる配置になったのではないかと考えております。
- 今後も調整や検討が必要な部分もありますので、より良い教育と子育ての環境づくりとなるよう、引き続き、子どもたちを真ん中に置いて、川岸学園構想の実現に向け、取り組んでまいりたいと考えております。

○報 告

1 ウェルビーイング実践校 TOCO-TON（トコトン）の指定について

＜長野県が創設した県内各地の教育課題に対応するため、学校の仕組みの改革等に取り組む、学校や教育委員会に対して、公募により県が人員配置等の支援を行う「ウェルビーイング実践校」に岡谷市教育委員会が採択団体に指定されたことについて資料 No.3 に基づき事務局より説明＞

太田教育長職務代理者： 採択されたことによって県から先生の加配がつくということだと思いますが、それ以外にどのようなメリットがあるのでしょうか。

事務局（両角）： 行政に教育者が関わっていただくことはとても大切です。岡谷市では現在、県に採用された先生を独自に配置し、市の負担で仕事をしてもらっています。今回の指定によって、県の先生の身分を変えずに、県の費用によって新たに配置することができるようになり非常にありがたいお話です。加えて、先進地の視察や講師の派遣費用も県から出していただけると報道されていますが、詳細の公表はこれからなので確認をしながら支援を活用してまいります。

藤森教育委員： 「岡谷版コミュニティ・スクール」への移行について触れられていますが、長野県は「信州型コミュニティスクール」を進めていて、国型とも若干異なる取り組みをしていると記憶していますが、岡谷の取り組みは県にどのように評価されているのでしょうか。

事務局（両角）： TOCO-TONの指定にあたり、選定の詳細については公開されていません。

長野県では地域とのつながりを大切にする「信州型コミュニティスクール」を推進していますが、全国で約6割の小中学校が国型に移行していることもあり、長野県の教育長会議では信州型から国型へという考えも出てきています。そのため「おかやのまちじゅう学園化構想」にて、本市でも国型に移行する内容を含めました。

藤森教育委員： その地域にあったコミュニティスクールにすることが大切で、岡谷版を打ち出したことは評価されるべき取り組みだと思います。

2 令和7年 二十歳を祝う会について

<令和7年1月12日に開催される二十歳を祝う会の詳細について、資料No.4に基づき事務局より説明>

3 年末年始休業中の学校完全閉庁日について

<学校における働き方改革推進を目的とした、年末年始休業における完全閉庁日の設定について資料No.5に基づき事務局より説明>

4 令和6年12月定例会の議案について

<令和6年12月定例会の議案（学校用地取得に関わる補正予算、施設使用料手数料の改定、市立岡谷図書館施設改修工事に関わる補正予算、岡谷市役所出張所条例を廃止する条例）について、資料No.6に基づき事務局より説明>

5 岡谷市議会 9月定例会一般質問要旨について

<令和6年9月定例会の一般質問の要旨について資料No.7に基づき事務局より説明>

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

- 宮坂教育長： ありがとうございます。
 それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。
- 事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は
 1月10日（金）15時00分から301会議室を予定しています。
 よろしくお願いいたします。
- 宮坂教育長： ありがとうございました。
 以上で定例教育委員会を終了いたします。

11時30分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 7 年 1 月 10 日

教 育 長

宮取 享

署 名 委 員

太田博久

署 名 委 員

林 慎太郎

調 製 職 員

白上 淳